

2017 年度 東京栄養疫学勉強会 年間テーマ

2017 年度は、年間を通して、一つの大きなテーマを扱います。また夏～冬は固定のグループで、グループワークを行う予定です。年度の途中からの参加も歓迎しますが、一年を通して参加したほうが得るものは大きいでしょう。

【2017 年度の年間テーマ】 研究を探す・まとめる・作る

■新しい研究を始めるには、先行研究をくまなく調べ、整理し、今現在、科学的に何が言えるのかを考える作業（≒システムティックレビュー）が必要です。この作業は、日本人の食事摂取基準や各種臨床ガイドラインの作成にも用いられており、科学的根拠に基づいて栄養指導・栄養管理をする際にも役立ちます。しかし、その技術をもった人材は圧倒的に不足しています！そこで今年度は、講義・演習を通して、皆さんにシステムティック レビューを行える力をつけることを目的とします。また勉強会参加者でチームを作り、「日本人の食事摂取基準(2020 年版)」の策定に役立つようなテーマについて、システムティックレビューを行います。

■各会の予定

【春季会】先行研究の論文をくまなく探す方法を学ぶ(講義中心)

論文検索ツールである PubMed を使いこなす秘訣や、よい論文の条件について学びます。目的の論文に効率よくアクセスできるだけでなく、見つけた論文を批判的に吟味して取捨選択できる力を身につけましょう。

【夏季会】テーマに沿って先行研究をくまなく探す & 研究をまとめる(演習中心)

「日本人の食事摂取基準(2020 年版)」の策定のために、必要になるいくつかのテーマについてシステムティックレビューを行います。チームに分かれ、テーマに関する論文を PubMed で網羅的に探しましょう。見つかった論文の内容は、対象集団・測定方法などの項目ごとにエビデンステーブル(一覧表)にまとめます。どのような視点で論文の内容をまとめるべきかをチーム内で考えて、表の構造を決めてください。ここが腕の見せ所です。

【秋季会】先行研究の内容を整理し、そこから何が言えるかを議論する(演習中心)

見つかった論文をチームで手分けして読み、エビデンステーブルに情報を書き込みましょう。エビデンステーブルが完成したら、そこから何が言えるかについて、チームで議論してください。異なる方法でとられたデータをどのように比較するのか？研究手法の限界点をどう考えるか？レビューから明らかになったことをチームごとに発表します。

【冬季会】未来のために必要な研究を考えよう(演習中心)

システムティックレビューで見つかった先行研究だけでは、答えが出ないこともあるかもしれません。各チームで作ったエビデンステーブルを眺めながら、さらにどんな研究が必要かを考えましょう。その研究をするためには、どんな測定方法が開発されればよいのか？そのための障害は何か？これから私たち若手が取り組むべき課題について整理し、研究者や実務者などそれぞれの立場から何ができるかを考えましょう。

+++++

本来ならば時間をかけて習得する技術のため、毎回頭も体も疲労困憊の状態になるかもしれません。しかし、不足している研究の穴埋めをするためにも、研究を社会や目の前の個人に正しく活かすためにも必須の技術です。

より良い社会の実現と夜の部を楽しむために、志を高く持って一緒に頑張りましょう！！